

鶴見高等学校図書館 資料収集・廃棄方針

本校図書館は、学校教育に役立つ資料・知的好奇心を喚起する資料・生徒の興味・関心ある資料を、幅広い視点から収集し、随時資料の更新を図って新鮮さを保ち、利用者にとって魅力的な蔵書を構築します。

この蔵書の構築にあたっては、生徒および教職員のリクエストに可能な限り応え蔵書に反映させるとともに、以下の方針に沿って資料を収集・廃棄するものとします。

収集方針

- ・生徒が興味・関心を持っている資料については積極的に収集する。
- ・生徒の読書・学習・自主活動に役立つ資料については積極的に収集する。
- ・教職員の教育活動に必要なものについては積極的に収集する。
- ・本校にかかわる資料・学校内で作成された資料については積極的に収集する。
- ・地域にかかわる資料についても積極的に収集する。
- ・寄付された資料で、生徒・教職員に活用が期待される資料については収集する。

上記の資料については、生徒支援グループが中心となって、適宜収集・選定を行う。

また、マンガ・雑誌については、収集の方針・方法を別に設ける。

なお、あまりに高額なものや、利用が特定の個人に限られるもの、品切・絶版などで手に入らないものは、他の学校図書館・公立図書館から借用して提供に努める。

廃棄方針

- ・5年以上前に出版され、内容が古くなっているものは廃棄の検討の対象とする。
- ・5年以内に出版されたものについても、最新版を購入したものについては、古いものを廃棄の検討の対象とする。
- ・近年利用がなく、また今後も生徒・教職員の利用が見込まれないものについては廃棄の検討の対象とする。
- ・廃棄対象資料については、一定期間展示し、教職員に開示して、意見を仰いだのち廃棄する。

マンガ収集方針

- ・本校の授業など教育活動に役立つもの・教員から推薦のあったものは、積極的に購入する。
- ・今まで蔵書としているマンガの続巻は購入を検討する。
- ・欠本・破損の激しいもので今後も利用が見込まれるものは、必要に応じて補充・買い替えを検討する。
- ・寄贈されたもので、発行されたうちの8割程度の冊数がそろい、利用が見込まれるものは収集を検討する。

以上の選定は、生徒支援グループが中心となって行う。

上記以外の新規購入マンガは、年1回、生徒のリクエストを受付ける期間を設け、その中から4タイトル程度を選定して購入する。その予算額は図書費書籍費の中の5パーセント以内とする。その際の選定は、生徒支援グループ・図書委員会が中心となって行う。

雑誌収集方針

- ・雑誌については、生徒が興味・関心を持っているもの、生徒の読書・学習・自主活動に役立つもの、教職員の教育活動に必要なものの他、部活動で役立つものを積極的に収集する。
- ・雑誌は定期購読を基本とし、年に1回、入れ替えの検討を行う。その際の検討は、生徒・教職員の利用状況を参考に、生徒支援グループが中心になって行うほか、特に教科関連のものについては各教科、部活関係のものについては顧問会議においても検討する。
- ・以上の定期購読雑誌以外に、リクエスト枠を設け、月に1誌程度、生徒のリクエストの中から選定したものを利用状況をみながら購入する。その選定は、生徒支援グループが中心になって行う。